

2015 ③

史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 平成 27 年度企画展 3

邪馬台国の時代 1

北陸と会津を結んだ古津八幡山―東北南部（会津）の世界―
解説パンフレット

会期 2015 年 10 月 6 日～12 月 27 日

企画展の開催にあたって

東北南部（会津）では、弥生時代になっても、縄文（縄目文様）のある弥生土器が使われていました。それが、弥生時代終末になると北陸に起源のある縄文のない弥生土器も使われるようになります。住居（竪穴住居）や墓の形も北陸と似たものが造られるようになります。

邪馬台国の時代、北陸と新潟・東北南部の間で何があったのでしょうか？ちょうどこの頃、北陸と東北南部を結んだのが交通の要衝にあった古津八幡山遺跡と考えられます。企画展 3 では邪馬台国の頃の東北南部の様相を探ります。

天王山遺跡 福島県白河市大字久田野字豆柄山

遺跡は阿武隈川と高橋川の間に残丘状に取り残された独立丘陵の頂上に位置する。標高は 407m。阿武隈川河床との比高差は約 80m である。1950 年開畑の際に、藤田定一氏・岩越二郎氏らによって発掘調査が行われ、完形に近い土器が多数出土した。

全域で焼土や積石遺構・石組等が検出されたが、竪穴住居は確認されなかった。また、炭化した粒状・塊状のコメ、クリ・クルミ・等の植物遺体やアメリカ式石鏃・石皿・敲石・環状石斧等の石器、管玉が見つかった。

本遺跡出土の土器を標識として、東北南部の弥生時代後期の土器型式「天王山式」が設定されている。



開津台畑遺跡 福島県河沼郡会津坂下町大字開津字台畑

遺跡は阿賀川（大川）の河岸段丘に立地し、標高は約 185m である。昭和 30 年代前半の開田の際に弥生土器 2 点が出土した。天王山式の壺 1 点、櫛描文系の甕 1 点である。

中村五郎氏が天王山式を畿内第 4 様式併行に位置づける根拠の一つとなった著名な資料である。

石川日出志氏等による研究によれば、天王山式に櫛描文土器が伴う可能性は低い、櫛描文系土器は弥生時代中期末葉の会津地域における日本海流域との交流を示す重要な遺物として評価できる。



和泉遺跡 福島県会津若松市和泉字原山

遺跡は阿賀川（大川）とその支流である宮川に挟まれた河岸段丘に立地し、標高は約 188m である。東北横断自動車道建設に伴い、1989・1990 年に福島県教育委員会により発掘調査が行われた。古墳時代の竪穴住居 13 棟、掘立柱建物 1 棟、溝跡 2 条・土坑 8 基等が検出されているが、弥生時代のものとしては、土器棺墓 1 基、遺物包含層 3 地点が検出された。遺物包含層はいずれも浅く窪んだ谷状地形に形成されたものである。



第 3 遺物包含層は、遺跡東端部で東西 6 m、南北 25m の南北方向に走る浅い窪みに堆積した遺物包含層であり、中央部の深さは 35～45cm であった。ここからは、完形に復元された 13 点の小形の弥生土器が出土した。出土土器を見ると、頸部のくびれる甕形の器形が多いこと、附加条縄文の多用、弧線文・鋸歯文等の構図、2 本描の施文など、中期末葉の土器に見られる古い様相を多く残している。また、東関東系の中期末葉の土器片も出土しており、天王山式成立期の様相を示す良好な資料である。

能登遺跡 福島県河沼郡会津坂下町大字勝字能登

遺跡は会津盆地西縁山地の東側を南北に流れる田沢川と出鶴沼川に挟まれた平坦地にある。標高は約 197～200m で、調査区中央の段丘崖で二つの平坦地が分割されている。東北横断自動車道建設に伴い 1989 年に福島県教育委員会により発掘調査が行われた。竪穴住居 2 棟、掘立柱建物 2 棟、土坑 3 基等の奈良・平安時代の遺構や、弥生時代後期の遺物包含層が検出されている。

遺物包含層は、調査区東側の南東向き斜面に形成されており、比高差 1.5m、厚さ 10～30cm を測る。他時期の土器を若干含むものの、天王山式土器が大量に出土しており、当該期の基準資料となっている。白河市天王山遺跡の「天王山式」と概ね同時期で、展示資料は文様のないものが多いが、器高 20cm 前後の甕形土器が多数報告されている。その他、匙状土製品 2、独鈷石形土製品 1、円盤状土製品数点、アメリカ式石鏃等が出土している。



館ノ内遺跡 福島県河沼郡会津坂下町大字五ノ井字館ノ内

遺跡は佐賀瀬川扇状地最末端の台地上に所在し、標高は 191m である。県営圃場整備事業に伴い、1987 年に会津坂下町教育委員会によって発掘調査が行われた。

弥生時代の竪穴住居が 2 棟検出されている（第 3 号住居跡・第 6 号住居跡）。2 棟とも平面形は一辺 3 m 程の不整形で貼床があるが、主柱穴・炉跡は判然としない。床面出土遺物が天王山式であることから、当該期とされているが、弥生時代中期や古代の土師器・須恵器も出土しており検討を要する。

また、台地先端にある平安時代以降に築かれたマウンドの下に残る遺物包含層や、周溝付近から弥生時代後期の大形壺が出土している。2 個体は共伴したものではないが、赤彩の大形壺と全面に櫛描波状文のある大形壺であり、古津八幡山遺跡の方形周溝墓周辺や土器棺墓出土土器と近似したもので注目される。この他に日本海流域との交流を示す砂山式や、北関東系の樽式、東関東系の十王台式、土製紡錘車等が出土している。

細田遺跡 福島県河沼郡会津坂下町大字大沖字阿切作

遺跡は佐賀瀬川扇状地最末端に位置し、標高は 185m を測る。県営圃場整備事業に伴い、1984・1987 年に会津坂下町教育委員会によって発掘調査が行われ、竪穴住居 1 棟、土坑 2 基などが検出された。

1 号住居跡は、長径 2.7m、短径 2.4 m を測り、平面形が楕円形を呈する。床面・周辺に 39 基のピットがあるが、主柱穴はなく、炉跡も検出されていない。会津地域における天王山式期の竪穴住居として重要である。

また、円形に巡る SX01・SK15・SK13・SK09・SK10 等があり、円



形周溝状遺構（周溝を持つ住居）の可能性がある（吉田博行氏教示）。覆土からは天王山式に後続する土器が出土している。

屋敷遺跡 福島県会津若松市町北町屋敷、高野町上沼木

遺跡は阿賀川・湯川・不動川等によって形成された低位沖積段丘面上に位置し、標高は 196m 前後である。発掘調査は、東北横断自動車道建設に伴い福島県教育委員会（1989・1990 年）により、インター・アクセス道路整備に伴い会津若松市教育委員会（1991 年）により行われた。縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡であり、弥生時代の遺構は発掘調査区の南側にまとまるが、平安時代の遺構により大規模な攪乱を受けている。



弥生時代終末から古墳時代前期の遺構としては、住居跡 10 基・周溝状遺構 13 基、土坑 13 基、井戸 1 基等がある。

住居跡には平面形が円形のもの 4 基、隅丸方形のもの 4 基があるが、円形のは弥生時代中期後半の堅穴住居であろう。

周溝状遺構の中には住居の周囲に造られた周溝か、周溝墓の可能性が考えられるが判然としない。平面形が方形を呈する 5 号周溝状遺構は方形周溝墓と考えられる。



弥生時代終末期の土器は、交互刺突文のある狭義の天王山式土器を含まず、それより新しい土器型式が主体となっており、会津地域における天王山式に後続する土器型式として「屋敷式」・「屋敷段階」とされている。

桜町遺跡 福島県河沼郡湯川村大字桜町字中町・千苺ほか

遺跡は日橋川の支流である瀬川西岸の微高地に所在し、遺跡の標高は 185m 前後である。会津縦貫北道路建設に伴い、福島県教育委員会により 2004 年～2013 年にかけて 5 次に行われた発掘調査が行われた。



南側の第 1 次調査区（2004 年）では、堅穴状遺構 1 基、四隅の切れる方形周溝墓 7 基、平地住居とされる周溝状遺構 2 基等が検出されている。



中央部分の第 2 次調査区（2009 年）では、堅穴状遺構 3 基、掘立柱建物 8 棟、周溝墓 10 基、周溝状遺構（中央に掘立柱建物を伴う平地住居や性格不明の周溝）6 基、井戸 1 基、土坑 5 基、貯蔵穴 2 基などが検出されている。



北側の第 3 次調査区（2010 年）では、土坑 6 基のほか、2 次調査区から続く区画溝が検出されている。

第 4 次調査区（2011 年）では、第 1 次調査区に隣接して四隅が切れる方形周溝墓 3 基、第 2 次調査区に隣接する調査区で円形周溝墓 2 基が検出されている。



周溝墓は出土土器の編年から、四隅

が切れる方形周溝墓→周溝が土橋状に切れる前方後方形周溝墓→前方後円形周溝墓の変遷が推測されている。

桜町遺跡の周溝墓の変遷

桜町遺跡の周溝墓には、①四隅が切れる方形周溝墓、②周溝が土橋状に切れる方形周溝墓（前方後方形周溝墓）③周溝が土橋状に切れる円形周溝墓（前方後円形周溝墓）の 3 形態がある。

周溝墓の周溝出土土器の編年から、下記のように変遷したと考えられている。

桜町 1 式（八幡山 2 期併行） ①四隅が切れる方形周溝墓

桜町 2 式（八幡山 3・4 期併行） ②周溝が土橋状に切れる方形周溝墓（前方後方形周溝墓）

桜町 3 式（八幡山 5 期併行） ③周溝が土橋状に切れる円形周溝墓（前方後円形周溝墓）

これらは北陸系土器・堅穴住居と同じく、富山県等の北陸北東部より伝わった墓制であろう。①四隅が切れる方形周溝墓は古津八幡山遺跡に八幡山 1 期末から 2 期初頭の事例があり、富山県から古津八幡山遺跡を経由して伝わったものと考えられる。

一方、②前方後方形周溝墓、③前方後円形周溝墓は、古津八幡山遺跡や家西遺跡のように明確な前方部を持っておらず、型式学的にはそれらよりは古い様相を示している。新潟県内では長岡市奈良崎遺跡や藤ヶ森遺跡の方形周溝墓に近い。会津では、古津八幡山 5 期以降、方形・前方後方形・四隅突出形の方形系列、円形・前方後円形の円形系列など墳墓形態が多様化する。

稲荷塚遺跡・杵ガ森古墳 福島県河沼郡会津坂下町字稲荷塚

遺跡は水無川下位扇状地を旧宮川（鶴沼川）が侵食形成した河岸段丘上に立地し、北東部に存在する旧宮川に向かって緩やかに傾斜している。標高は約 177m である。発掘調査は、土地区画整理事業に伴い会津坂下町教育委員会によって 1990～1991 年に行われた。堅穴住居と方形周溝墓群である稲荷塚遺跡と、杵ガ森古墳からなる複合遺跡である。



稲荷塚遺跡 方形周溝墓 10 基、掘立柱建物 3 棟、堅穴住居 12 棟等の遺構が検出されている。

方形周溝墓群は、主軸を東西方向に向けるもの（SZ01・SZ02・SZ03・SZ04・SZ07）、南北方向に向けるもの（SZ05・SZ06・SZ10）、不明（SZ08・SZ09）に分けられる。各周溝墓の周溝の溝底からは葬送儀礼に使用されたと考えられる高杯・小形器台・壺等の完形土器が出土しており、遺構に伴う遺物として報告されている。一方で縄文施文の土器は破片であり、溝覆土上面からの出土であることから混入した遺物と判断されている。調査担当者の所見を尊重すべきであろう。

第 1 号堅穴住居 杵ガ森古墳くびれ部の周濠によって削平されているが、1 辺 5.5m の隅丸方形を呈し、支柱穴が 3 か所確認されている。北東隅床面からまとまった状態の土器が出土しており、土師器と共に縄文のある大形壺が伴った遺構として注目されている。赤彩された大形壺は東関東の十王台式の影響を受けた天王山式系の土器で、祭式に用いられてきた土器の系譜を引くものである。

杵ガ森古墳 墳長 45.6m の前方後円墳。SI01・SI02a・SI02b・SI06・SK01 を切って構築されている。SZ01・SZ04 と接していたが新旧関係は判然としない。



千坊山遺跡群 富山県富山市長沢向野・富崎ほか

百塚住吉遺跡・百塚住吉B遺跡・百塚遺跡 富山県富山市宮尾・松木
弥生時代から古墳時代へと移行する邪馬台国の時代、会津盆地ではそれまでみられなかった縄文のない土器が使われるようになった。また、山陰地方に起源をもつ四隅突出形墳丘墓や、方・円・前方後方・前方後円形の周溝墓も造られるようになる。

縄文のない土器の特徴は北陸北東部（能登・越中・越後・佐渡）のものと類似しており、これらの地域から影響を受けた可能性が考えられる。四隅突出形墳丘墓は日本海側では富山市の千坊山遺跡群まで確認されているが、新潟県ではまだ見つかっていない。また、方・円・前方後方形周溝墓は古津八幡山遺跡等、県内でも見つかっているが、前方後円形の周溝墓はまだ見つかっていない。なお、住居の構造が似ていることも合わせ、北陸から会津へ移住があったとする意見もある。



謎の土器型式—天王山式（系）土器の変遷—

文様帯の区部

○文様帯 I・II a・II・III 文様帯
（右図 鈴木正博 1976）

○八幡山0期（和泉遺跡段階）

- ・器形 壺・甕・浅鉢・注口付土器
口縁部から滑らかに外反する器形等の
中期後半以来の伝統が残る
- ・文様 I 文様帯が未発達
2条描き手法、対になる2段重ねの連弧文・山形文等の中期後半以来の伝統が残る

・施文方法 附加条縄文が顕著

○八幡山1期（天王山式段階） 天王山遺跡・能登遺跡

- ・器形 壺・甕・高杯・浅鉢・台付鉢・注口付・片口付・蓋
- ・文様 2条の平行線間に交互刺突文
口縁部の突起・波状口縁 口縁端部の刻目列（日本海側で顕著）
I 文様帯 上向き弧線文
II 文様帯 磨消縄文顕著、連弧文・円文・連繋渦文・重菱形文（日本海側で顕著）
III 文様帯 下開きの連弧文

・施文方法 R L 縄文が卓越、縦走・横走縄文が顕著

※赤塗壺・高杯が特徴的（別紙参照）

古津八幡山遺跡では、典型的な天王山式は少なく、破片資料が大半。遺跡として八幡山2期以降が主体であることと、天王山式分布圏の外殻圏にあることが理由。

○八幡山2・3・4期 屋敷式（屋敷段階） 桜町1式・桜町2式

- ・器形 壺・甕・高杯・注口付・蓋
口縁部の内湾や肥厚、口頸部間の段や屈曲が弱くなり、口縁部が広がる
粗製の広口長胴壺が目立つ
- ・文様 交互刺突文が後退して、1条の刺突列、押圧文、縄文の側面押圧となる D字状刺突列、ジグザグ文など
- ・施文手法 附加条縄文（撚糸文）が顕著

※会津では北陸系土器が相伴する。

北陸系土器の比率は新しくなるにつれて増加するようになる。

○八幡山5期 桜町3式 稻荷塚遺跡

※北陸系土器が主体となり、縄文施文の土器は原則として無くなる。

- ・器形 壺・甕・高杯・器台・鉢・蓋
- ・文様 原則として無文（器面調整はミガキ・ハケメ等、北陸と同じ）

※縄文施文の土器は、赤塗壺の系譜を引く壺だけ残る。

（祭りに使用されたものだろう。）

※福島県会津坂下町稻荷塚1号住居、三条市狐崎遺跡1号住居

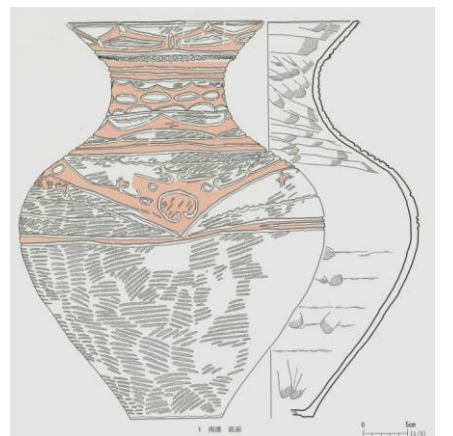
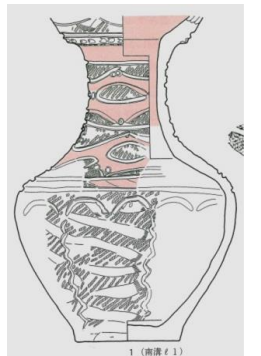
天王山式（系）の赤塗壺の系譜

天王山遺跡出土の壺や高杯には赤彩されているものが多く、高杯の中には北陸系の高杯のように塗り分けられているものもあり、これらは祭りに使われたものと推測される。

八幡山2期以降になると、口縁部が拡張して外傾し、口縁部下端に突帯や刺突列を持つ広口長頸長胴壺が見られる。その器形や突帯から、東関東の十王台式土器（茨城県日立市）の影響を受け、天王山式と折衷して成立したものと考えられる。また、この系統の壺の赤彩率が高いことも特徴的である。

天王山式土器の分布圏外にある柏崎市西谷遺跡や、八幡山5期併行の稻荷塚遺跡で北陸系土器と共伴した有名な赤塗壺は、この壺の特殊な使われ方を暗示している。

一方で、桜町遺跡では東関東系土器が出土しているにもかかわらず、この系統の赤塗壺が殆どなく、別系統の赤塗壺が使われており興味深い。天王山式系の高杯は少なく、北陸系に取って代わられたようだ。



終わりに

会津では弥生時代後期になると、地元系の縄文のある弥生土器（天王山式）に対し、北陸系の縄文のない土器の比率が徐々に増えていきます。また、住居の平面形もそれまでの円形や楕円形から隅丸方形になります。方形周溝墓や前方後方形周溝墓という墓の形態も北陸に起源があります。古墳時代前夜のことです。

弥生時代後期に会津で見られたこのような社会の変化は、富山県や石川県などの北陸地域から、新潟県内を経由して伝わったものと考えられますが、前方後方形周溝墓が新潟県内よりも会津の方が数多く見つかっているなど、解明すべき課題も多く残されています。

当時新潟県内では、阿賀野川以南で北陸系の弥生土器や竪穴住居が、阿賀野川以北では東北系の弥生土器や竪穴住居がつくられていました。古津八幡山遺跡はちょうどその中間点に所在します。交通の要衝にあった古津八幡山遺跡が北陸と会津を結ぶ役割を果たしたのではないかと考えられます。

一方で、阿賀野川以北における北陸系文化の浸透は会津よりも遅かったようです。このことについて、今回の企画展4で探っていきたいと考えています。ご期待ください。

本企画展の開催にあたって、下記の機関等よりご協力いただきました。

会津坂下町教育委員会

喜多方市教育委員会

白河市教育委員会

富山市教育委員会

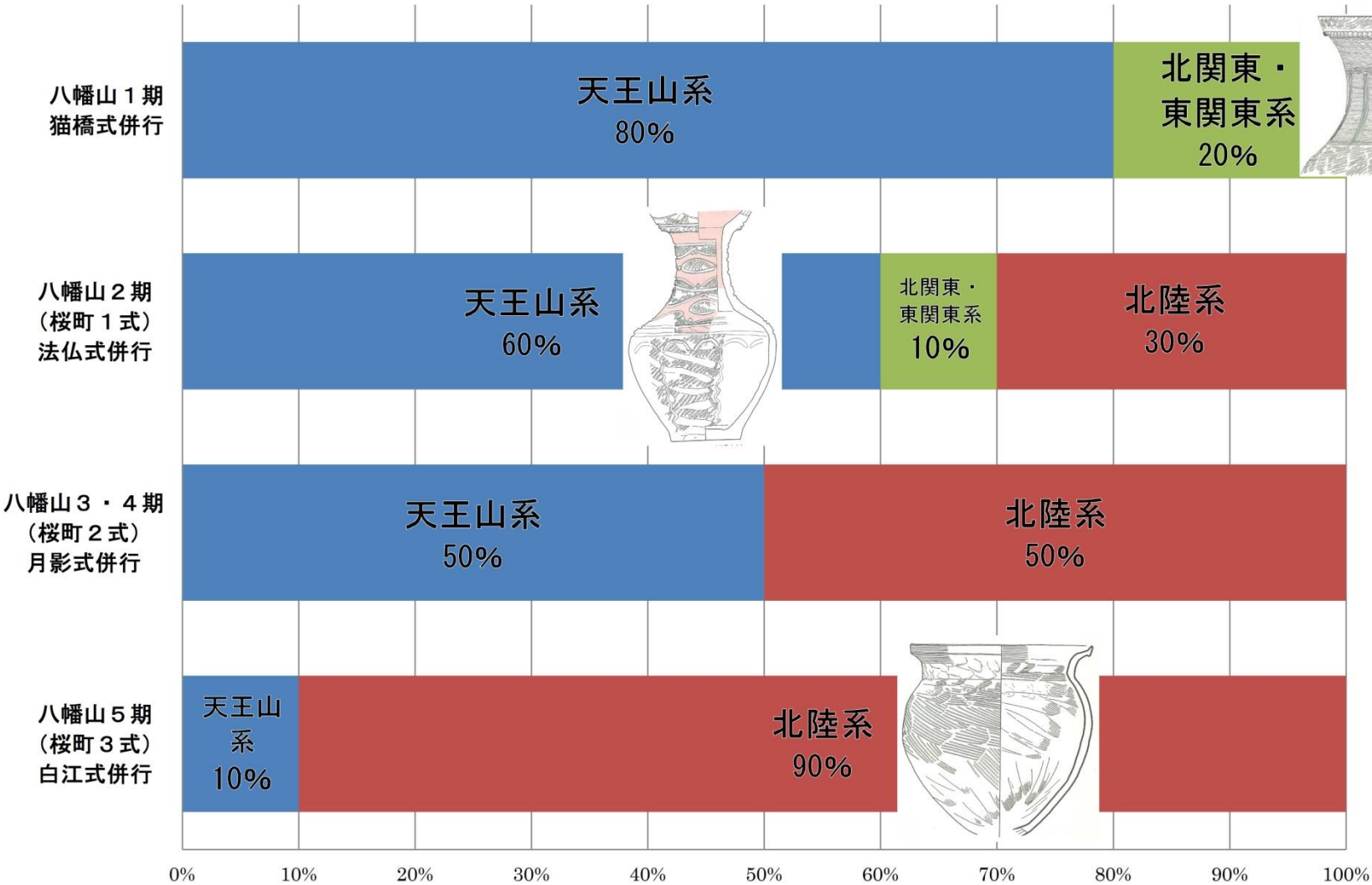
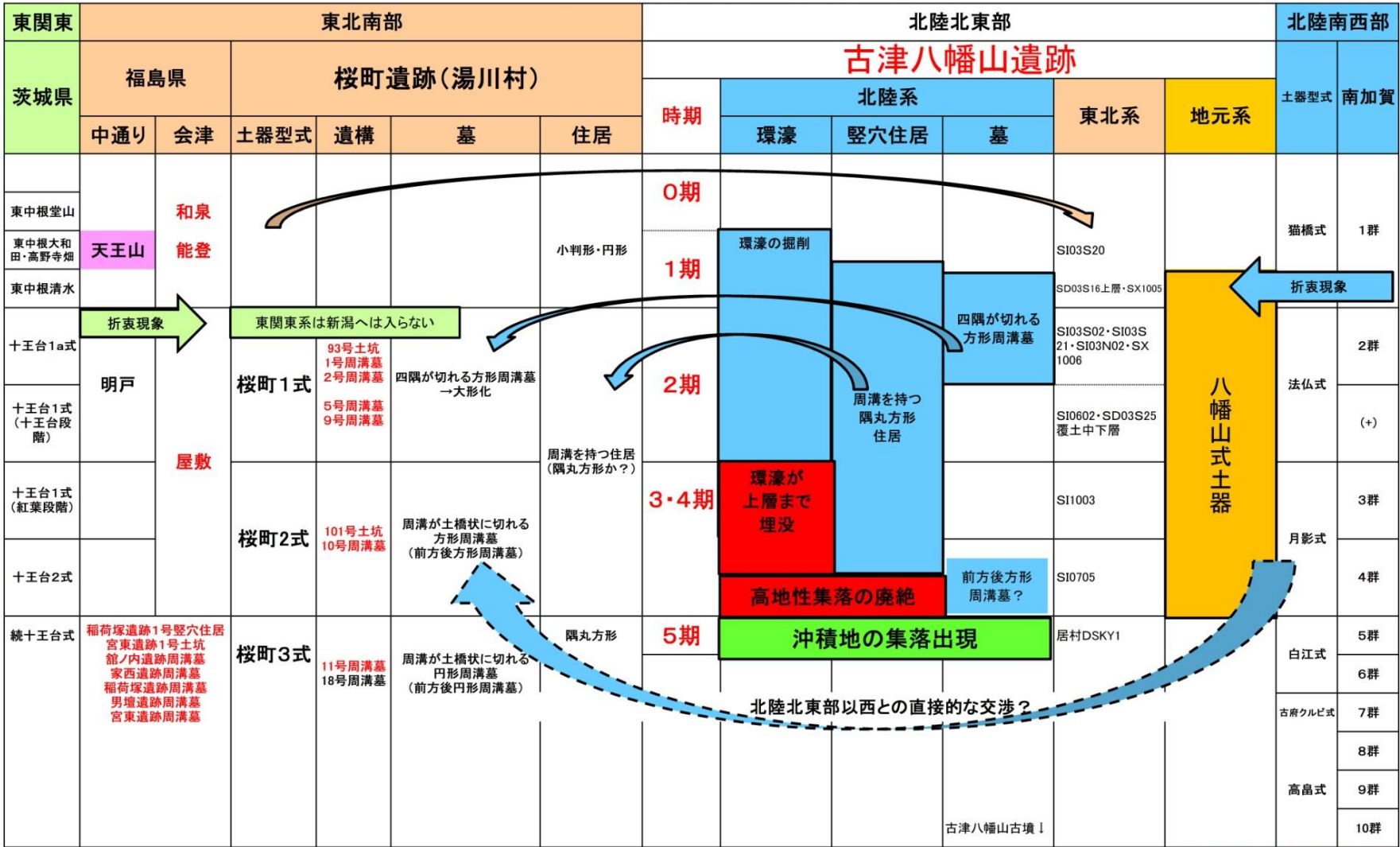
福島県文化財センター白河館

福島県立博物館

（五十音順）

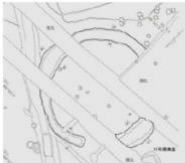
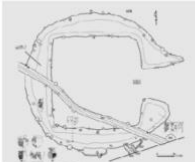
**『企画展4 縄文のある弥生土器—新潟県北部（阿賀北）の世界—』
2016年1月5日～3月27日 開催予定**

古津八幡山遺跡と周辺遺跡の関係

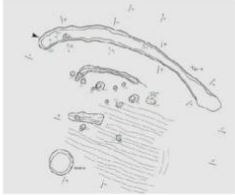
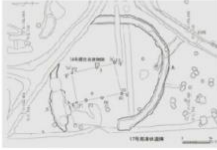


桜町遺跡における土器系統毎の割合の変遷

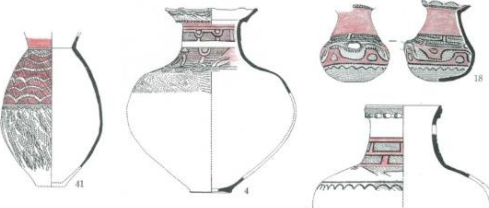
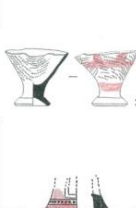
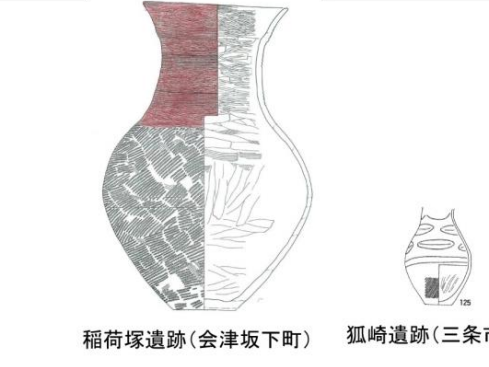
会 津 地 域 に お け る 周 溝 墓 の 変 遷

古津八幡山遺跡		桜町遺跡	周 溝 墓 など							
八幡山1期			桜町遺跡では、方形から円形への墳墓形態の変遷が見られる。他遺跡の様相を見ると、八幡山5期(桜町3式)以降 墳墓形態が多様化する。							
八幡山2期	桜町1式	四隅の切れる方形周溝墓	 桜町遺跡2号周溝墓	 桜町遺跡9号周溝墓	 桜町遺跡93号土坑、1・2・9				(参考)古津八幡山遺跡 方形周溝墓	
八幡山3・4期	桜町2式	周溝が土橋状に切れる方形周溝墓(前方後方形周溝墓)	 桜町遺跡10号周溝墓	 桜町遺跡 四隅突出形周溝墓						
八幡山5期	桜町3式	周溝が土橋状に切れる円形周溝墓(前方後円形周溝墓)	 桜町遺跡11号周溝墓	 館ノ内遺跡1号方形周溝墓 前方後方形周溝墓			前方後方形、方形、 前方後円形周溝墓  稲荷塚遺跡  男壇遺跡			(参考)古津八幡山遺跡 前方後方形周溝墓
八幡山5期以降			 家西遺跡8号周溝墓			 宮東遺跡4号周溝墓			円形周溝	

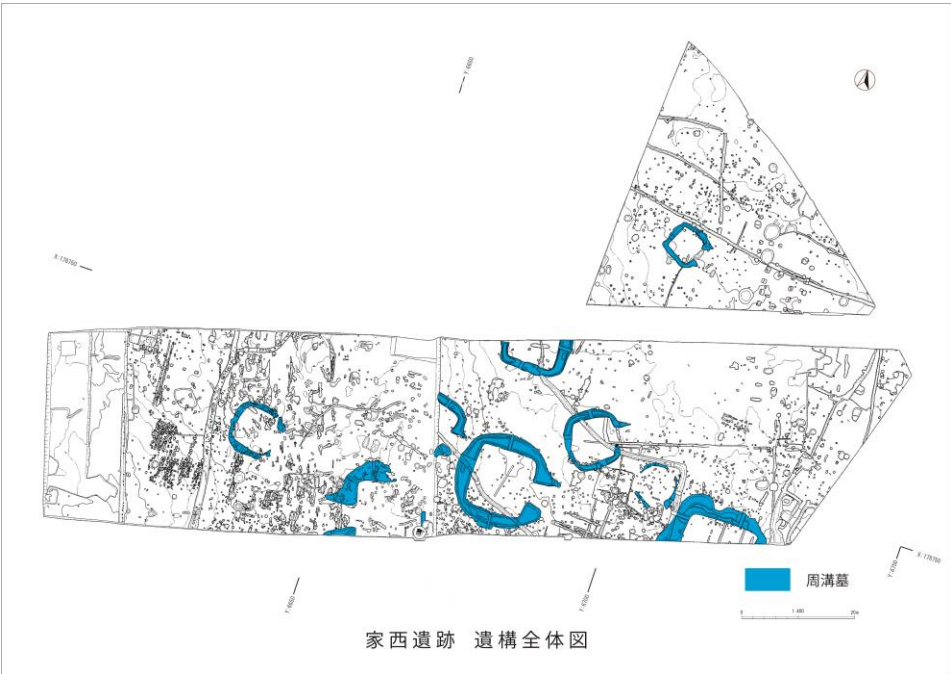
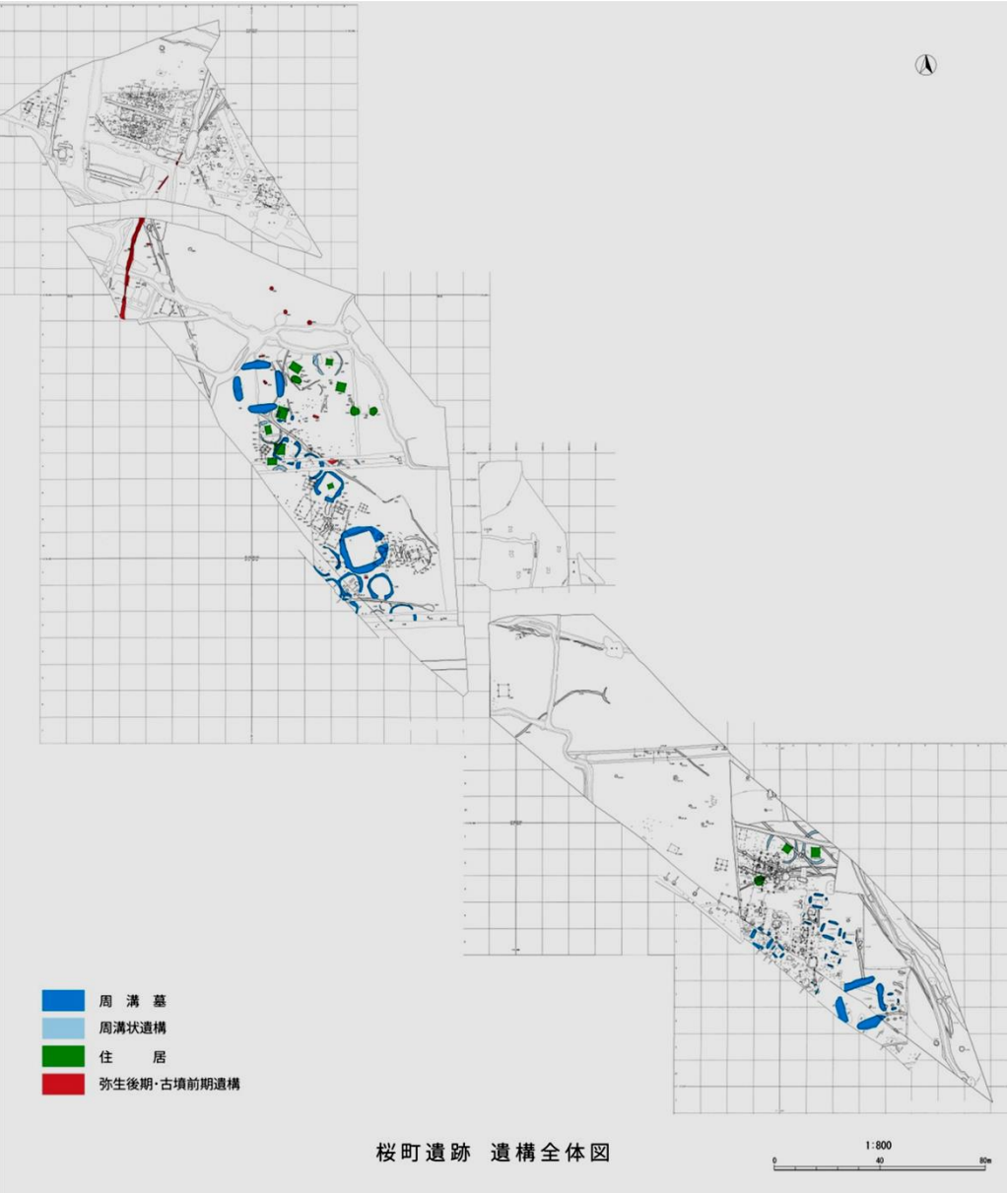
会 津 地 域 に お け る 住 居 の 変 遷

古津八幡山遺跡			桜町遺跡	豎 穴 住 居 など	
八幡山1期		古津八幡山遺跡の住居は全て隅丸方形	小判形 円形	 細田遺跡1号建物	
八幡山2期	(周溝を持つ)隅丸方形	 桜町1式	小判形	 桜町遺跡3号豎穴住居	
八幡山3・4期	(周溝を持つ)隅丸方形	 桜町2式	周溝を持つ住居	 桜町遺跡6号周溝状遺構  桜町遺跡13号周溝状遺構  桜町遺跡17号周溝状遺構  屋敷遺跡4号周溝状遺構	
八幡山5期	隅丸方形	桜町3式	隅丸方形	会津地域では、八幡山1期には東北系(天王山系)土器が伴う小判形もしくは円形の豎穴住居が見られる。 八幡山3期以降、北陸系土器の増加現象とともに、周溝を持つ住居が見られるようになる。 平地住居か豎穴住居かは不明。主柱穴を持つものと持たないものがあるようだ。 八幡山5期以降は主柱穴を持つ隅丸方形の豎穴住居に画一化される。  中西遺跡	
八幡山5期以降	隅丸方形		隅丸方形		

天王山式(系)の赤塗壺の系譜と変遷

古津八幡山遺跡	桜町遺跡	赤塗壺	高杯
八幡山1期			
八幡山2期	桜町1式		
八幡山3・4期	桜町2式		
八幡山5期	桜町3式		

縮 尺 不 同



家西遺跡 8 号周溝墓 遺構検出 (喜多方市)



家西遺跡 8 号周溝墓 (喜多方市)



家西遺跡 8 号周溝墓 遺物出土状況 (喜多方市)